

令和元年度文化創造関連事業の実施状況

高岡市は、万葉集の中心的編纂者である大伴家持が国守として赴任し、多くの歌を残した万葉ゆかりの地として、万葉のふるさとづくりに取り組んできたところである。新元号「令和」が万葉集を典拠として決定されたことを受け、高岡市万葉歴史館での令和に関する企画展や特別講座を開催したほか、高岡万葉まつりでの令和にちなんだ特別企画やトークイベントを実施するなど、万葉集や万葉に関する文化の振興と万葉のふるさととしての魅力の発信に取り組んだ。

また、市民会館の休館中も、市民の文化・芸術活動が停滞することのないよう、高岡市民文化振興事業団等と連携し、まちかどや公共スペースなどを活用した芸術文化活動「ユニークベニューTAKAOKA プロジェクト」を展開した。

1 新たな万葉のふるさとづくり（知る・つなげる・伝える）

(1) 万葉トークイベント

「令和」の考案者と言われている富山県高志の国文学館館長・中西進氏と、高岡市万葉歴史館館長・坂本信幸氏、歌人・小島ゆかり氏によるトークイベントを開催。令和改元を機会に、「万葉のふるさと高岡」を広く発信するとともに、万葉集の魅力や楽しみ方に触れることで、万葉のふるさとづくりに対する市民の機運の醸成と、万葉ファン、高岡ファンの拡大を図った。

10月4日（金）／高岡商工会議所大ホール 入場者数 330人

(2) 万葉歴史館 新元号「令和」や天皇即位に関連した企画展

「令和」の発表直後に、梅花の宴や、元号の典拠となった万葉集の部分について解説する特別企画展を開催。秋には、天皇即位に関連した衣装展示や万葉衣装体験のほか、万葉まつりの会場での出張展示を行った。また、市内外で万葉に関する出張講座や講演会などを数多く実施し、万葉歴史館を拠点とした情報発信等を行った。

(3) 万葉集全20巻朗唱の会における特別企画

高岡版「梅花の宴」

朗唱のステージ上に梅花の宴を再現し、万葉ゆかりの地の首長や、高岡市ゆかりの方々が、家持が詠んだ歌等を朗唱した。

10月4日（金）／東洋通信スポーツセンター（高岡市民会館）

令和劇場「梅花の宴」

古城公園の梅園前にステージをつくり、事前募集した参加者が万葉集「梅花の宴」

の歌 32 首を朗唱し、解説者がその歌を解説した。

10 月 5 日（土）、6 日／高岡古城公園

(4) 高校生万葉短歌バトル（知る・創る）

高校生によるチーム対抗短歌大会。全国 33 校 67 チームから厳しい予選を勝ち抜いた 8 校 8 チームの高校生が高岡に集結。本戦は古代から伝わる「歌合（うたあわせ）」のルールを用いたトーナメント方式で進め、古式をたどり雅な趣にふれながら、高校生短歌日本一を決定した。

8 月 23 日（金）／生涯学習センター

2 アート&クラフトシティ高岡を表現した事業の実施

(1) 工芸都市高岡の秋 2019（知る・創る・つなげる・伝える）

9 月 19 日（木）～22 日（月・祝）を会期として、今年度は以下の 3 つのイベントを同時開催した。文化創造課の予算事業は「高岡クラフト市場街」であるが、その他のイベントの実行委員会や関係課と連携し、「工芸都市高岡」の魅力発信、来場者増、関係団体の連携強化などの目標を共有して取り組んだ。

○クラフト市場街／来場者数 24,300 人（昨年 27,600 人）

総計 64 の展示・体験・食・音楽イベントを楽しめるクラフトに関する総合イベントとして開催。例年どおり山町筋を歩行者天国とし、「作家のひきだし展」「職人・町人スタンプラリー」「市場街ナイト」「銅物の放し飼い」などの人気コンテンツを充実させた。今年はスマートフォンアプリ「イングレス」のミッションデーとのコラボにより、賑わいが創出された。

○工芸都市高岡 2019 クラフト展／来場者数 1,582 人（昨年 3,457 人）

第 33 回目の開催。325 点の入選作品が御旅屋セリオの催事場に展示された。

○ミラレ金屋町／来場者数 23,800 人（昨年 20,000 人）

「ミラレ金屋町」となって 2 年目の開催。400 年以上の歴史を誇る町並みで、工芸の展示とあわせて伝統的な町屋の暮らしを楽しむイベント。地元大学生が着物を着てファッションショーを行ったほか、石畳通りを歩きながら町家の紹介を行った。

(2) 文化創造都市高岡市民会議（知る・創る・つなげる・伝える）

アート&クラフトシティ高岡推進委員会と市の企画・運営による音楽イベント。市民との交流や対話を通じて、本市の文化に対する意見や課題の把握を行う。

・ひなフェス in 山町ヴァレー（予定）

3 月 15 日（日）／山町筋

3 文化創造都市高岡ウェブサイトの運営（知る・伝える）

平成 27 年度に開設したウェブサイト「文化創造都市高岡」の内容の充実を図った。高岡市のフェイスブックでのシェアによる PV 数向上に取り組んだほか、文化イベント情報を丁寧に拾って紹介した。また、後述の「クリエイター向け情報発信事業」にあわせ、高岡市と多様に関わる人やその取組み、工場・工房のレポート記事等のほか、活動を行うための支援情報の提供などに重点を置いて更新した。（資料 1-3）

4 クリエイター向け情報発信事業（知る・創る・つなげる・伝える）

総務省の「関係人口拡大・創出」モデル事業の採択を受け、首都圏のクリエイティブ・クラスターを対象に、本市の歴史や文化を切り口とした PR 事業を行った。

(1) Creators Meet TAKAOKA（首都圏 PR イベント）

10 月 7 日（月）14 時～20 時 30 分／渋谷ヒカリエ 8 階「COURT」

伝統的な工芸品やデザイナーとのコラボレーションによって生み出された作品等の展示、高岡の技を体験するワークショップ、高岡ゆかりのクリエイターと高岡市の職人が語るトークセッションを実施し、本市における創作活動の魅力と可能性について PR した。また、高岡体験交流ツアーの参加者を募った。

・来場者数：334 人

（展示 244 人（うちワークショップ参加 9 名）、トークセッション 90 名）

・獲得した連絡先：メールアドレス：74 件

・高岡体験・交流ツアーに関する情報提供希望者：23 名

(2) 高岡体験交流ツアー

高岡市内のものづくりを行う工房・工場をはじめ、クラフト商品の研究開発等を支援する高岡市デザイン・工芸センター等を訪問し、本市における創作活動の環境や体制、本市の職人と市外のクリエイターの良い関係性による成功事例を紹介するとともに本市の職人や地元まちづくり団体と交流した。ツアーの最後に、参加者との意見交換・ディスカッションを行った。さらに別途詳細なアンケートも実施した。

11 月 22 日（金）～23 日（土）

・人数：12 人

・訪問先：能作（金属鋳物メーカー）、シマタニ昇龍工房（鍛金）、武蔵川工房（螺鈿細工）、富山県総合デザインセンター、高岡市デザイン・工芸センター、飛鳥山善興寺など

5 日本遺産をはじめとする歴史・文化資産を活用した魅力発信関連事業

(1) 日本遺産推進協議会への補助（知る・創る・つなげる・伝える）

本市が認定を受けている2つの日本遺産を市内外にPRし、地域に根ざした多様な歴史・文化の魅力を発信した。

・出向宣伝等への参加

① 日本遺産サミット in 高知

10月12日(土)～13日(日)／高知県高知市

来場者数：1万人

② ツーリズム EXPO ジャパン in 大阪

10月26日(土)～27日(日)／インテックス大阪

来場者数：10万2,791人

③ 日本遺産の日プロモーションイベント

令和2年2月11日(火・祝)～13日(木)／東京交通会館

来場者数：1万2,100人

(2) TAKAOKA 発瓦版：伏木・北前船編の発行（知る・伝える）

「高岡発瓦版：町民編」「同：職人編」に続く第3弾のタブロイド紙を発行。北前船寄港地として栄えた伏木地区を中心に、日本遺産のストーリーの紹介だけでなく、万葉集にも歌われた自然の魅力や、まちあるきの情報等も掲載し、全国の北前船関連施設等に配布した。

(3) 高岡法科大学との連携事業

大学コンソーシアム富山の「地域課題解決事業」の一環として、高岡法科大学の学生が、高岡市内の日本遺産の地を巡る動画を作成。Youtubeで配信中。

(4) 北前船日本遺産推進協議会への参加

平成30年に追加認定を受けた「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間（北前船寄港地・船主集落）」について、加盟自治体で組織する北前船日本遺産推進協議会と連携し、ストーリーの周知や旅行商品の造成等に取り組んだ。

6 ユニークベニューTAKAOKA プロジェクト（知る・創る・つなげる）

芸術文化の舞台を“ホール”から“まちなかや地域のユニークベニュー”へと移し、まちなかや地域の賑わいを創出することを目的に、市民やアーティストなどの活動、交流の場や優れた芸術文化を身近に感じる機会の充実を目指し、年間を通じた継続的

な公演を実施している。

実施期間：平成 31 年 6 月 1 日～令和 2 年 3 月 28 日

場所：ウイング・ウイング高岡（リトルウイング）、Curun 高岡 2 階南北自由通路「万葉ロード」、御旅屋セリオ屋上庭園、山町ヴァレーなど、まちなかのユニークベニューを活用

実施回数：30 回

来場者数：1,703 人（2 月 2 日時点）

公演内容：ピアノ、箏曲、尺八、民謡民舞、琵琶、小唄、三味線、フラダンスなど

7 藤子・F・不二雄氏の顕彰にかかる関連事業

(1) アトラクティブ高岡推進事業（知る・伝える）

ドラえもんトラム、志貴野中学校前（ドラえもん）電停、ドラえもんポストなどの継続実施

(2) ガイドブック等の制作・配布（知る・伝える）

(3) 高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーの運営（知る・伝える）

平成 27 年度入場者数（12～3 月）	12,425 人
平成 28 年度入場者数（4～3 月）	38,606 人
平成 29 年度入場者数（4～3 月）	41,775 人
平成 30 年度入場者数（4～3 月）	54,281 人
令和 元年度入場者数（4～1 月）	38,626 人

8 beyond2020 認証取得の支援（知る・伝える）

日本文化の魅力を発信するとともに、障害者にとってのバリアや外国人にとっての言語の壁を取り除く取組みに対する認証の取得を支援する。

平成 29 年度／6 件

平成 30 年度／6 件

令和 元年度／9 件

9 高岡市民文化振興事業団への委託・補助による文化振興事業（知る・創る・つなげる）

地域の芸術文化の振興を図るため、市民文化振興事業団と連携し、市民文化の普及向上に関する文化振興事業に取り組む。

<特徴的な事業>

- ・高岡市芸術祭
- ・10歳のファーストコンサート、劇団四季「こころの劇場」
- ・音楽文化のまちづくり事業（オーケストラ公演、風と緑の楽都音楽祭等）
- ・第一線で活躍するアーティスト等を講師としたワークショップやクリニック

<指定管理委託している文化施設>

①高岡市万葉歴史館

春・秋 正月特別展

新元号「令和」記念の特別企画 など

②高岡市美術館

コレクション展「高岡の金工・漆芸」など

企画展「夢のアール・ヌーヴォー アルフォンス・ミュシャ展」

「明治金工の威風 - 高岡の名品、同時代の名工 -」

「高岡市民美術展」

「クリエイティブ・たかおか」

「GEIBUN 11」（富山大学芸術文化学部 大学院芸術文化学研究科卒業・修了研究制作展）

「日本伝統工芸富山展」

「高岡市美術作家連盟展」など

③高岡市立博物館

特別展「古写真にみる高岡」

特別展「高岡開町 410 年記念 前田利長書状展」

常設展、館蔵品展など

④ミュゼふくおかカメラ館

コレクション展

企画写真展「関 由香 写真展 ねこうらら」

「安念 余志子 写真展 うたかた」

「絶対風景 絶景でつづる日本列島」

「安珠 写真展 ～少年少女の世界～ビューティフルトゥモロウ」など